

令和6年度 新栄小学校 学校評価結果

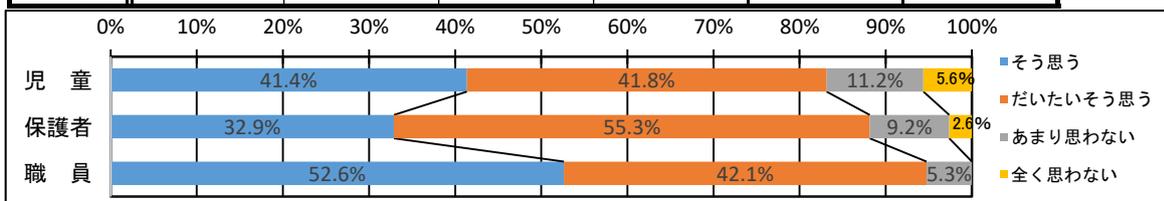
1 児童 学校に来るのが楽しい。

保護者 お子さんは、学校に行くのが楽しいと思っている。

職員 子どもたちは、学校生活を楽しんでいる。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	103	104	28	14	249	3.2
保護者	50	84	14	4	152	3.2
職員	10	8	1	0	19	3.5



【学校の取組】

・児童に寄り添い一人一人の理解を深め、明るく元気に生活できる教育環境づくりに努めた。また、いじめや困り感の早期発見に心がけ、情報共有を密にし、チームで対応して解決に努めた。

【回答の分析】

- ・児童・保護者・職員の平均を見ると、どれも高い数値となっている。3者とも80%を超えている。
- ・「全く思わない」「あまり思わない」児童16.8%、保護者11.8%いる。職員は5.3%と少し差がある。

【評価委員意見および学校の見解】

- ・一人一人に寄り添った対応をしていただいている。子どもたちは学校行事を楽しみにしている。
- ・児童会を中心に楽しい行事を設定したことも楽しいと答えている要因の一つではないか。

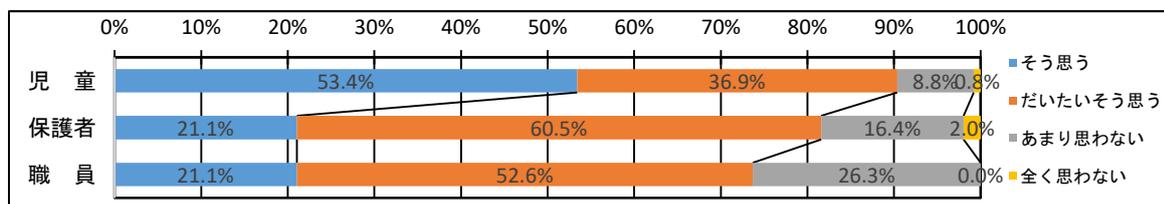
2 児童 家族や友だち、先生や地域の人にあいさつしている。

保護者 お子さんは、家族や友達、先生や地域の人に挨拶ができています。

職員 子どもたちは、家族や友だち、先生や地域の人にあいさつしている。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	133	92	22	2	249	3.4
保護者	32	92	25	3	152	3.0
職員	4	10	5	0	19	2.9



【学校の取組】

・児童会が中心となりオアシス運動を実施した。地域での挨拶については、学級での指導だけでなく通学団指導の折にも行った。

【回答の分析】

- ・児童や保護者の80%以上が「そう思う・だいたいそう思う」と回答しているが、職員の評価がやや低い。

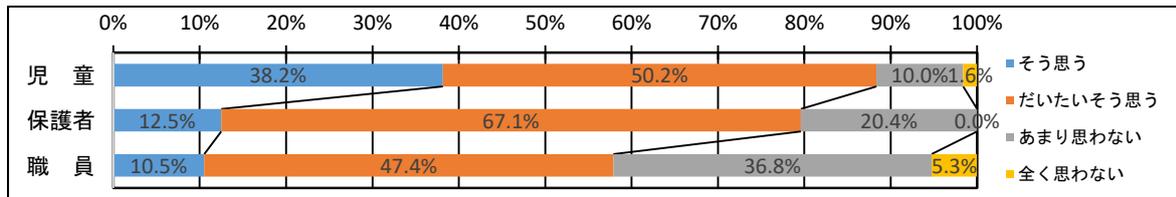
【評価委員意見および学校の見解】

- ・地域の人へも積極的に挨拶できるとよい。
- ・大人が挨拶をしている姿を子どもたちに見せていくことが大切である。

- 3 児童 相手の気持ちを考えて、よい言葉づかいをしている。
 保護者 お子さんは、相手の気持ちを考えた言葉遣いをすることができる。
 職員 子どもたちは、相手の気持ちを考えて、よい言葉づかいをしている。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	95	125	25	4	249	3.2
保護者	19	102	31	0	152	2.9
職員	2	9	7	1	19	2.6



【学校の取組】

・道徳の授業や児童会のオアシス運動などを通して、相手の気持ちを考えたよい言葉づかいを行うことのよさに気付かせ、日常生活の中で実践できるように指導した。

【回答の分析】

・児童の評価は高いが、保護者や職員の「あまり思わない」の比率が高い。

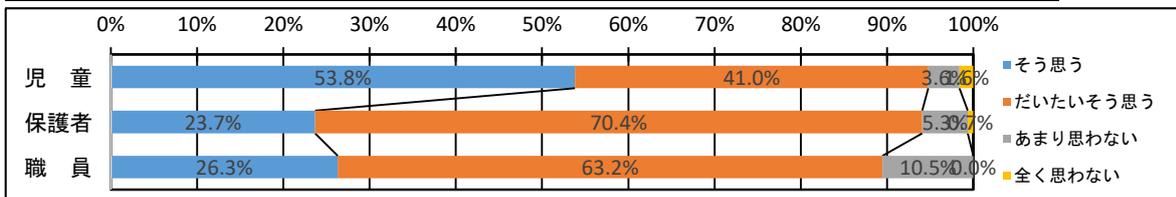
【評価委員意見および学校の見解】

- ・高学年になると少しずつ丁寧な言葉遣いができるようになっていく。
- ・アニメ、テレビ、ネットなどの影響が大きいと思う。
- ・道徳の授業を活用し、思いやりの心を育てていく。

- 4 児童 友だちやまわりの人に優しくしている（クラス、通学班、縦割り班など）。
 保護者 学校は、縦割り活動等を通して、互いの人間関係を育み、自尊感情を高めるよう取り組んでいる。
 職員 子どもたちは、友だちやまわりの人に優しくしている（クラス、通学班、縦割り班等）。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	134	102	9	4	249	3.5
保護者	36	107	8	1	152	3.2
職員	5	12	2	0	19	3.2



【学校の取組】

・縦割り班や通学団、学級などで、互いに認め合い、協力しあって活動できるようにし、互いの信頼関係を育み、自尊感情や自己肯定感を高めた。

【回答の分析】

・三者の約90%が「そう思う・だいたいそう思う」と肯定的に回答している。

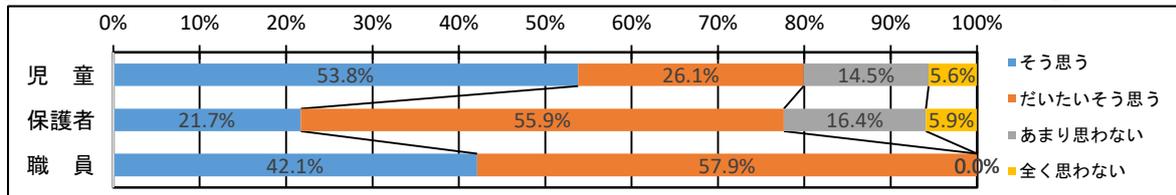
【評価委員意見および学校の見解】

・年7回実施している縦割り活動が、異学年の信頼関係づくりに役立っている。

- 5 児童 困ったとき、気軽に相談できる先生がいる。
 保護者 子どもが困ったとき、先生たちに気軽に相談できる。
 職員 子どもたちの相談に、適切に応じている。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	134	65	36	14	249	3.3
保護者	33	85	25	9	152	2.9
職員	8	11	0	0	19	3.4



【学校の取組】

・教育相談だけでなく、普段から児童の実態把握をするとともに、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に努めた。毎月、いじめ・不登校対策委員会を開き、職員全体で情報共有および協力体制の確認を行った。

【回答の分析】

・職員に比べて、保護者の評価がやや低い。より相談しやすい雰囲気づくりを行ったり、保護者との情報共有を密にし、たりして、家庭とより連携していく必要がある。

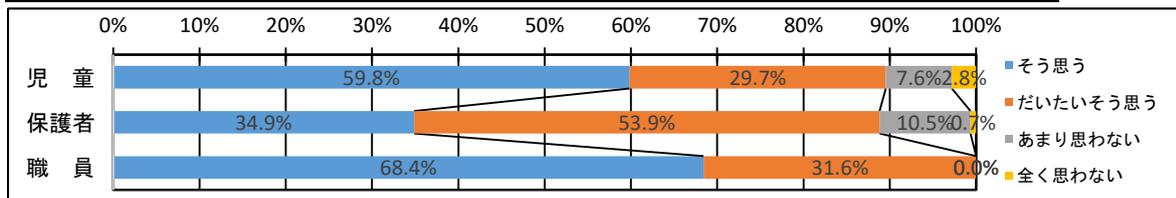
【評価委員意見および学校の見解】

- ・困っている児童を教員が出来るだけ早い段階で気づき、対応できるとよい。
- ・保護者と教員が交流する場があるとよいのではないか。

- 6 児童 先生は、できたことや努力したことを認めてくれたり、励ましてくれたりする。
 保護者 学校は、子どものよさや努力を認めたり、励ましたりするなど適切に評価している。
 職員 子どもたちのできたことや努力したことを認めて、励ましたりしている。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	149	74	19	7	249	3.5
保護者	53	82	16	1	152	3.2
職員	13	6	0	0	19	3.7



【学校の取組】

・普段から児童の実態や状況の把握に努めるとともに、よさを認めたり励ましたりすることを継続して行う。また、保護者との連絡を密にし、児童のよさの共有を家庭とも行えるようにする。

【回答の分析】

・三者とも約90%が「そう思う・だいたいそう思う」と回答している。

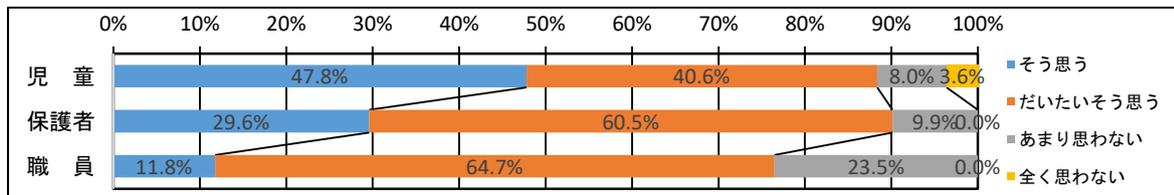
【評価委員意見および学校の見解】

- ・命令的な言葉よりも褒めて自己肯定感をあげることが大切ではないか。
- ・児童のよさを認め、伸ばすことを大切にしていきたい。

- 7 児童 学校の授業はわかりやすい。
 保護者 学校は、わかりやすい授業となるよう工夫している。
 職員 子どもたちは、授業の内容をよく理解している。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	119	101	20	9	249	3.3
保護者	45	92	15	0	152	3.2
職員	2	11	4	0	17	2.9



【学校の取組】

- ・子どもたちの状況を把握して授業を工夫することで、主体的に学習に取り組む意欲を高め、勉強する楽しさや喜びを味わわせた。
- ・タブレット端末を効果的に活用し、意欲的に考え、伝え合いながら学ぶことができる授業実践や研修を行った。

【回答の分析】

- ・児童・保護者の約90%が「そう思う・だいたいそう思う」と回答しているが、職員の評価がやや低い。

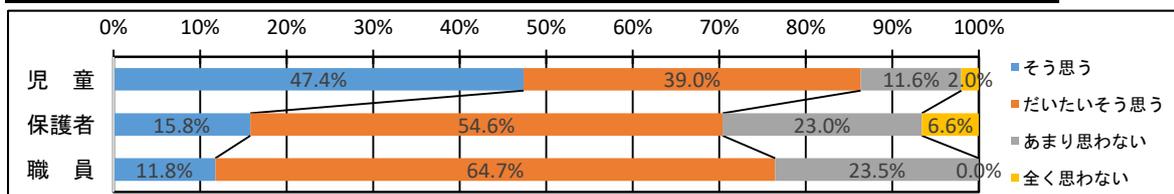
【評価委員意見および学校の見解】

- ・視覚的にわかりやすい板書、わかりやすい丁寧な授業を心がけていきたい。
- ・少人数指導、TT（チームティーチング）を効果的に活用すべきである。

- 8 児童 ノートに自分や友だちの考えを書いたり、授業でわかったことをまとめたりしている。
 保護者 お子さんは、ノートに自分や友だちの考えを書いたり、授業でわかったことをまとめたりすることができるようになっている。
 職員 子どもたちは、ノートに自分や友だちの考えを書いたり、授業でわかったことをまとめたりしている。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	118	97	29	5	249	3.3
保護者	24	83	35	10	152	2.8
職員	2	11	4	0	17	2.9



【学校の取組】

- ・課題（めあて）を明確にし、自分の考えを書く時間や考えを伝える場や学びを振り返り自分の言葉でまとめる活動など授業展開の工夫に努めた。また、ノート指導の充実を図った。

【回答の分析】

- ・児童に比べて、保護者・職員の評価が低い。保護者に授業の様子を伝える工夫が必要である。また、指導の仕方も研修を重ね、工夫していく必要がある。

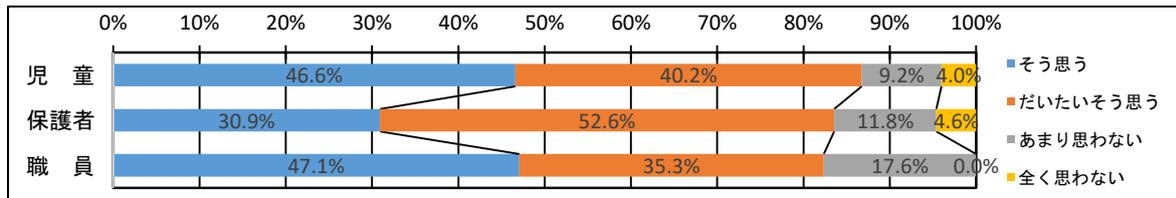
【評価委員意見および学校の見解】

- ・じっくり考えて、自分の考えを言葉で表現する力をぜひ高めてほしい。
- ・自筆で書くことは大切にしてほしい。

- 9 児童 朝学や授業で、漢字や計算の練習をがんばっている。
 保護者 お子さんは、漢字や計算など基礎的な学習に一生懸命取り組んでいる。
 職員 子どもたちは、朝学や授業で、漢字や計算の練習をがんばっている。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	116	100	23	10	249	3.3
保護者	47	80	18	7	152	3.1
職員	8	6	3	0	17	3.3



【学校の取組】

・朝学や授業での繰り返し学習を通して、漢字や計算など基礎・基本の定着を図った。また、漢字・計算コンクールを毎学期に実施し、学習の成果を振り返ったり、達成感を味わえたりするようにした。

【回答の分析】

・3者とも「そう思う」「だいたいそう思う」回答が多い。

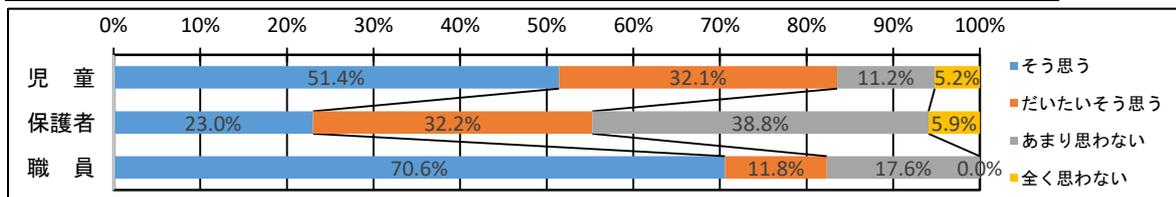
【評価委員意見および学校の見解】

・基礎学力を高めるためには、継続することが重要である。学校全体の基礎学力定着を図るために今後も継続して取り組んでいきたい。

- 10 児童 読書をしったり読み聞かせを聞いたりするのが好き。
 保護者 お子さんは、読書をしったり読み聞かせを聞いたりするのが好きである。
 職員 子どもたちは、読書をしったり読み聞かせを聞いたりするのが好き。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	128	80	28	13	249	3.3
保護者	35	49	59	9	152	2.7
職員	12	2	3	0	17	3.5



【学校の取組】

・学年ごと学期ごとに、学級活動の時間で読書指導を行った。図書室の環境整備を進め、読書への興味・関心を高めた。また、ボランティアによる読み聞かせ活動も行った。

【回答の分析】

・児童や職員の「そう思う・だいたいそう思う」の回答が多いが、保護者の評価が低い。家庭での読書習慣を高める工夫も必要である。

【評価委員意見および学校の見解】

・多読賞という賞を設定し、読書活動の啓発を図った。児童はとても積極的に読書に親しんでいた。
 ・子どもサポーターによる図書の修繕活動を行っている。児童の読書活動が活発になるように次年度も行っていきたい。

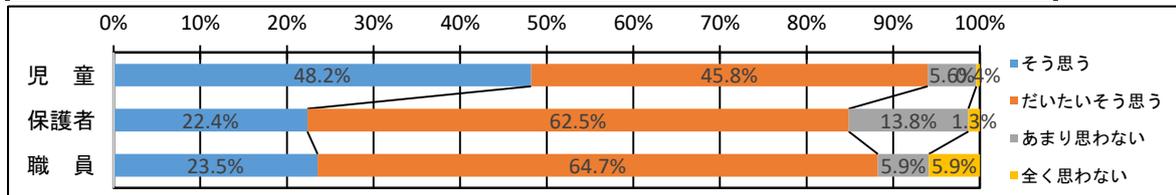
11 児童 学習マナーを守っている。

保護者 お子さんは、生活の決まりを守っている。

職員 子どもたちは、学習マナーを守っている。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	120	114	14	1	249	3.4
保護者	34	95	21	2	152	3.1
職員	4	11	1	1	17	3.1



【学校の取組】

・4月当初に示された「生活のきまり」や「学習マナー」などに基づいて指導した。また、学期途中や学期末には「学習マナーチェック」を実施し、振り返り活動や見直しを行った。

【回答の分析】

・三者の約80%が「そう思う・だいたいそう思う」と回答している。

【評価委員意見および学校の見解】

- ・日々の継続が大切である。学校全体でしっかりと指導していける体制づくりに努めたい。
- ・落ち着いた生活環境を学校全体でつくり、安全な学校生活を送ることができようにしていきたい。
- ・学習マナーを定着させ、基礎学力の定着、学力の向上へつなげていきたい。

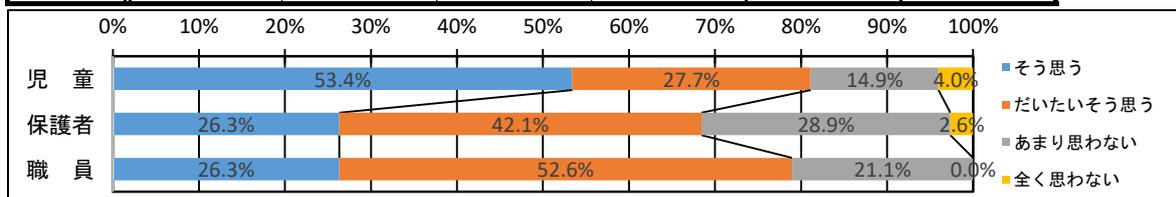
12 児童 体力づくり（一輪車、なわとびなど）に進んで取り組んでいる。

保護者 お子さんは、体力づくり（一輪車、なわとびなど）に進んで取り組んでいる。

職員 子どもたちは、体力づくり（一輪車、なわとびなど）に進んで取り組んでいる。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	133	69	37	10	249	3.3
保護者	40	64	44	4	152	2.9
職員	5	10	4	0	19	3.1



【学校の取組】

・個人で取り組める一輪車や短なわとびを中心に体力づくりを行った。また、長なわとびも学級で協力して取り組めるように時期や方法を工夫して実施した。

【回答の分析】

・保護者の評価がやや低い。トイレ改修工事により、場所や活動内容が限られていたことで、活動の充足感が低いと感じたのではと考えられる。

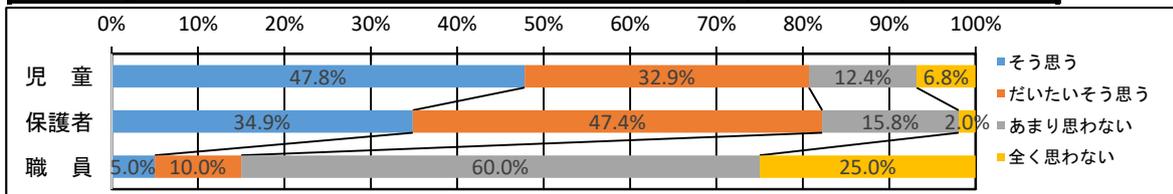
【評価委員意見および学校の見解】

- ・一輪車運動を今後も積極的に取り組んでほしい。
- ・親子一輪車教室はぜひ継続して行ってほしい。
- ・次年度も教育活動に一輪車運動を積極的に取り入れ技能向上を図ってほしい。

- 13 児童 早寝・早起き・ごはんを心がけている。
 保護者 お子さんは、早寝・早起き・朝ごはんをこころがけている。
 職員 子どもたちは、早寝・早起き・ごはんを心がけている。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	119	82	31	17	249	3.2
保護者	53	72	24	3	152	3.2
職員	1	2	12	5	20	2.0



【学校の取組】

・年間を通して「早寝・早起き・朝ごはん」を呼びかけ、各学期に一回ずつ生活チェックカードで振り返りを行った。また、保健指導で「早寝・早起き・朝ごはん」の有効性を保健だよりなどで繰り返し伝えた。

【回答の分析】

・「そう思う・だいたいそう思う」という肯定的な意見の比率は、職員の割合が低い。

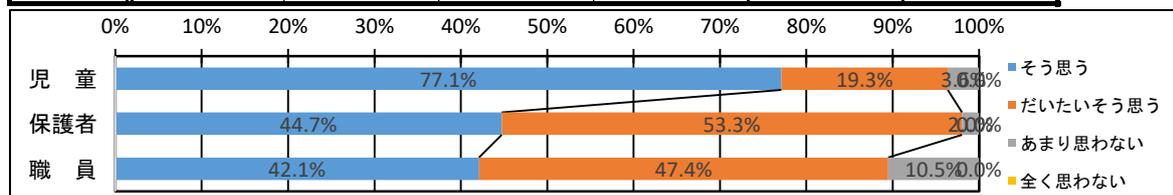
【評価委員意見および学校の見解】

・学校では、早寝早起きの意識化を積極的に進めてほしい。
 ・習い事をしている児童も多いため、遅い時間になってしまうのではないかな。

- 14 児童 交通ルールを守って、安全に登下校している。
 保護者 お子さんは、交通ルールを守り、安全に気を付けて登下校している。
 職員 子どもたちは、交通ルールを守って、安全に登下校している。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	192	48	9	0	249	3.7
保護者	68	81	3	0	152	3.4
職員	8	9	2	0	19	3.3



【学校の取組】

・通学団会議や付き添い下校で、交通ルールの確認や安全指導を確実にを行った。また、班長・副班長の指導を必要に応じて行い、安全意識が高められるようにした。

【回答の分析】

・三者とも90%以上が「そう思う・だいたいそう思う」と回答し、全体の交通安全への意識が高いことが分かる。

【評価委員意見および学校の見解】

・班長、副班長が責任感をもって務めている結果だと思う。
 ・地域の皆さんが児童の安全を毎日見守っていただいていることに感謝している。

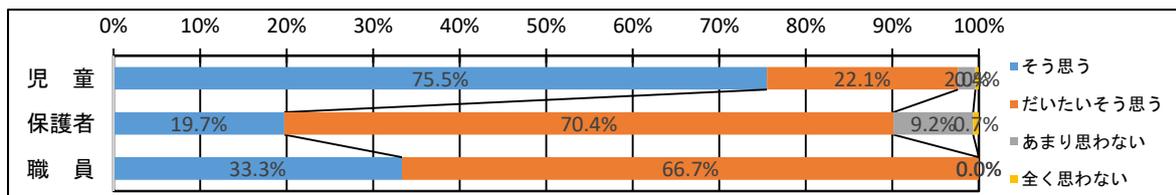
15 児童 地震や火事が起きたときや、不審者がきたとき、どうしたらよいかわかる。

保護者 お子さんは、地震や火事が起きたときや不審者がきたときに、どうしたらよいかを理解している。

職員 子どもたちは、地震や火事が起きたときや、不審者がきたとき、どうしたらよいかを理解している。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	188	55	5	1	249	3.7
保護者	30	107	14	1	152	3.1
職員	6	12	0	0	18	3.3



【学校の取組】

・地震・火事などを想定した避難訓練を行い、避難の際には、「お・か・し・も」を繰り返し指導した。また、不審者対応訓練をクラスごとで行い、「自分の命は自分で守る」という安全意識を高めた。

【回答の分析】

・三者とも約90%が「そう思う・だいたいそう思う」と回答している。保護者や職員に比べて、児童の「そう思う」の比率が高い。

【評価委員意見および学校の見解】

・校外で避難するとき、子ども110番の家を活用するのもよいではないか。
・より実践的な訓練を計画していきたい。

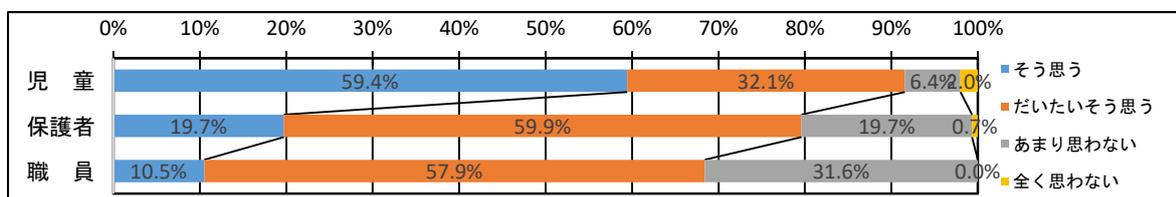
16 児童 病気やけがをしないように気をつけて生活している。

保護者 お子さんは、病気やけがをしないように気を付けて生活している。

職員 子どもたちは、病気やけがをしないように気を付けて生活している。

(人)

	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	合計	平均
児童	148	80	16	5	249	3.5
保護者	30	91	30	1	152	3.0
職員	2	11	6	0	19	2.8



【学校の取組】

・熱中症や感染症の予防や食物アレルギー対策など、養護教諭を中心に全職員で意識を高め、共通理解のもと指導を行った。また、学校でのけがや体調変化について、家族への連絡を確実にいった。

【回答の分析】

・「そう思う・だいたいそう思う」という肯定的な意見の比率は、職員や保護者の回答が児童よりも低い。

【評価委員意見および学校の見解】

・気を付けようとしても児童がケガをしてしまうことはある。その際、養護教諭のみではなく、管理職とも協力して迅速で適切な判断、処置ができようしていきたい。